

令和7年度 第2回小城市総合教育会議（要旨）

日 時 令和8年3月26日（木）11：00～

場 所 小城市役所（西館2階）大会議室A・B

1 開 会（11:00）

（市長）

- 教育委員の皆様には日頃から市の教育行政について、多大なるご尽力を賜っており、改めて感謝を申し上げます。
- 教育を取り巻くいろいろな課題又は環境変化があるが、そういう中で、様々なことについて皆様方と一緒に我々もしっかり頑張っていくので、よろしくお願ひしたい。
- 今日は、3点議事として挙げさせていただいている。順次意見交換をさせていただきたいと思うので、忌憚のないご意見をいただければと思う。

2 総合教育会議の概要について

（総務課長）

- 資料により、総合教育会議の概要を説明。

3 議 事

（1）小城市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
（学校教育担当部長）

- 資料により計画の内容を説明。

（市長）

- どの職場においても働き方改革がある中で、とにかく時間外勤務を減らすという取り組みがあると思う。例えば、今回議会で AI の話などが出たが、デジタル活用などもこの計画に入っているが具体的にどのような取り組みが在りうるイメージか。

（学校教育担当部長）

- AI 活用についても、各学校で有効に活用してくださいということで文科省から通知が出ている。文書を整えるなど、各学校で活用され、非常に有効的であると回答をいただいている。

（市長）

- 我々が資料を作る際には、事務方のほうで割と AI を使って資料を整理してくれている。実際私も見せてもらったが、今の AI はすごいと思った。ものすごく上手くまとめる。ただ、これが本当に正しいのかということを見抜く力が無いとだめかなと思う

ている。(できあがった資料を)ぱっと見るともっともらしくできており、汎用的に使う分に関してはこれでもいいのかなと思うが、実際自分が言いたいこと、プレゼンしたいことがそこに明確に入っているかという点、全然そういうことは無い。誤りももちろんある。AIは、使えば使うほどこちら側の質を上げないと、使いこなせないと思っている。

(教育長)

- 今市長が言われた内容を、子供に視点を当てると、これが正しいものなのかを動画も含めてフェイクが非常に多いので、画像でいうと本当に写真で撮ったのか、AIが作ったのか、こういうものを見抜く力というのは、大人であっても難しいし、子供であればなおさらである。文書として出てきたものがそのまま正しいものとして外に出してしまうといけない。自分の考えをまとめるときにAIを使うと、機械が文書を作ってしまうので、ニュースで論文の問題も出ていた。子供達が自分の考えをうまくまとめるためには、まず書き上げてもらって最終的にそれと比べていく。今後AIをどんどん使う可能性も出てくるので、今からは子供の時から見抜く力、自分で論理的に考えて処理するということがおろそかにならないように進めていかなければならないと感じた。

(白木原委員)

- 本日は業務量管理、健康確保措置実施計画という議事であったため、教職員の方の健康管理と働き方改革をどうしたらいいかということについて調べ考えてきた。この実施計画を見たときに、行政というのは縦割り組織だが、計画は縦ではなく横展開していく未来を考えてこれを作られたのかなと感じた。
- 教員の時間外労働や保護者対応が多く疲弊しているといったことがたくさん出てくるが、行政という枠を取っ払って、例えば民間企業でそういう弱点を打破したところがあれば、そういうところに意見を求めて取り入れて問題を解決することも1つの手段かなと考える。
- 今、私も1日のうちスマートフォンを見る時間が多いが、桜の花を見るとか中秋の名月を見るときは、スマートフォンで見るのではなく、実際に外に出て見に行ってみるような子供達を育むためには、文化の面や精神の面で自然に親しむような子供を育てていかなければいけないということを痛感する。

(2) 小中学校における児童生徒の教育環境に関する有識者懇話会について(報告)
(教育総務課副課長)

- 資料により懇話会の内容を報告。

(市長)

- 私のほうで全ての学校を回らせていただいた。施設の状況の確認ということもあったが、授業の風景なども視察させていただいた。施設面では、やはり改善するところ、老朽化が進んで対応しないといけないところが結構あった。照明のLED化を予算化しているが、学校施設内の照明のLED化がかなり遅れていると感じた。これについては、蛍光灯が生産中止になるということもあるが、さすがに暗い環境だと子供達の気持ちも乗らないだろうと考えるので、一度に全部は不可能だが、順次必要な部分からやっていきたいと思っている。1個1個全部やるというやり方ではなく、必要な部分でやっていったほうがより幅広くできると考えるので、教育委員会の事務局と話をしていきたいと思っている。
- 体育館の空調関係については、今回予算化し、教育施設や学校の体育館、社会体育館での空調導入の調査をしており、どれくらいのコストがかかるのか、どういうやり方がよいのかというような比較を行っている。基本的に避難所として使うことを想定しながら、順次導入していきたいと思っているが、一方で昨今の熱中症の問題もあるので、できるだけ早い段階で空調を導入したいという思いがある。ただ、予算確保の話もあるので、教育委員会事務局と話をしながら順次取り掛かっていきたいと考えている。
- LED化の話が、学校の長寿命化や改築の話とリンクする部分はあるが、来年から長寿命化に取り掛かるところは別として、(長寿命化や改築に)10年や15年かかるようなところは、長寿命化とは別にLED化や空調の話をしていきたいと思っている。そういうことも含めて、今いろいろな議論をしている状況である。
- 要望になるが、私も離島振興をやっていた関係で唐津の離島の学校はずっと回っていた。小規模学校のいいところ、少人数教育のいいところも非常にあると思っている。今の形で全てが残せるとは思わないが、色々な形で少人数校のいいところを引き出してあげられればと思う。そのような知恵や工夫が何かできればと考えている。ただ、先ほど話があったように、教育環境の中には、先生方が働きやすいということもあると思うので、その辺のバランスも必要であろうと思う。なかなか簡単な問題ではないが、いろいろなパターンを幅広く議論していただければと思っている。

(永野委員)

- 懇話会のメンバーについて、資料に候補としてこういった方々をということで挙げられている。資料最初のほうで小城市内の小中学校の現状と課題というところで、通常学級数は減少しているが特別支援学級はすごく増えているとある。これは、本当に実感しているところで、今後もクラス数はどうなるのかなと思うので、通常学級と特別支援学級の位置というか、このまま増やしていくのか、それともどこかで手を打たなくてはならないという気がここ数年しているので、懇話会のメンバーに特別支援教育に関する視点を持った方もいらっしやったらいいかなというふうに思った。

(教育長)

- 今の永野委員の意見については、今後の課題にもなる部分。このメンバーの中で言うと、東部教育事務所が県の管轄で状況も分かっている。東部教育事務所の所長には依頼するが、そこが一番かなと考えている。参考にさせていただきたいと思う。

(市長)

- 実際現場を見て、特別支援学級の多さには驚いた。こんなに増えたのかというのが率直な感じである。県でも鳥栖に特別支援学校を作ったが、とにかく増加している。これにどう対応していくのかが、これからの大きな課題と思っているので、そういうことも含めて議論いただければと思う。

(3) 文化・スポーツに関する施策（教育を除く）を市長部局で実施することについて

(市長)

- 文化・スポーツに関する施策（教育を除く）を市長部局で行うことについて説明したい。地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、文化やスポーツに関することは教育委員会で管理し執行すると規定されているが、第 23 条でその特例があり、例えば図書館、博物館、公民館などの設置や、スポーツに関すること、文化に関すること、文化財に関することについては、条例で市長部局でできますよという規定がある。
- 県は、スポーツを地域交流部の SSP 推進局、文化については、文化・観光局という首長部局で所管している。文化財保護も最初は教育委員会に残していたが、5 年ほど前に文化財が文化財保護だけではなく活用についても話題になったため、知事部局に持ってきて、最近では吉野ヶ里遺跡の見せる収蔵庫などがある。それから、生涯学習については、まなび課という課が県民環境部にあり、図書館とセットで地域環境部に担当している。そして法律上の博物館については、本丸歴史館や博物館、美術館、名護屋城博物館などすべて文化・観光局で 15 年前ぐらいから所管している。
- 市町でいくと佐賀市も同じように生涯学習と図書館は教育委員会だが、それ以外のスポーツや文化・文化財保護、公民館などは地域振興部で所管されている。唐津市と鳥栖市もスポーツと文化は首長部局、武雄市はスポーツが首長部局ということで、割と先ほど説明した法律の規定に基づいて首長部局でされるところが増えてきている。参考に資料の下に掲載しているが、スポーツに関することは都道府県では 87.2%、市町村でも 22.7%が首長部局で担当している。これは、10 年前ぐらいから増えてきており、文化やスポーツに関しては首長部局でやるという大きな流れになっている。
- 今回提案している、教育を除く文化・スポーツに関する施策を市長部局で行うことで、教育委員会の負担を軽減し、教育により集中していただくことと、文化・スポーツを活用した地域づくりを推進したいということが意図である。地方自治体が処理する事務というのは、基本的に地方自治法の世界で、その中で地方教育行政の組織及び運営に関する法律で教育委員会の仕事が規定され、その中に先ほど紹介した図書館、スポ

ーツ、文化などがあり、これは条例で首長部局でできますよという規定になっている。その中で、文化・スポーツが、健康づくりや観光、交流、まちづくり、地域振興などの結びつきが非常に幅広くなっているのので、教育という中だけではやりにくくなっているということがある。法律上もそうなっているし、大きな流れがそうなっているのので、この文化とスポーツについては、首長部局で担当することにしてはどうかという検討のお願いになる。具体的にどこまでやるのかは今から協議をさせていただきたいと思っているが、やはり教育委員会の負担を軽減し、より教育に集中していただく環境を作りたいということと、スポーツを活用した地域づくりを進めていきたいということが大きな目的である。

- もしこれをやるとすれば、12月議会には条例を出さないといけないので、秋ぐらいまでにいろいろな人々と議論させていただければと思っている。

(教育長)

- この件に関して、何か意見があればお願いしたい。

(市長)

- 県の話させていただくと、先ほど申し上げたように15年前ぐらいに文化・スポーツを首長部局に持ってきたが、その施策がかなり増えている。局ができていますのでお分かりのようにいろいろな施策、事業が増え、文化関係予算は10倍ぐらいになっている。それぐらい今文化やスポーツを使っていろいろな地域づくりや地域振興に繋げようということをやっている状況である。

(教育長)

- 今県の状況を言われたが、実際、今の時点で職員を増やすことも難しい状況なので、今いる職員をいかに組織的に集約して効果的にやっていくということは、絶対にしなければならないことだと考えている。組織を整理して検討していく必要がある。各委員で意見があればお願いしたい。

(吉田委員)

- 今回はスポーツに関して市長部局で担当していただくということに私は非常に期待している。小城市は南北に長い市で、スポーツや文化に関してそれぞれの地域でそれぞれやっているという感じがする。それはそれでよいが、何か小城市を挙げてもっと盛り上がるようなものが欲しいと感じている。祭りのようなものに関しても、それぞれ昔から受け継いできた祭りがあり、それぞれの時期にやっているが、そこに市も絡んでいただいて、小城市の祭りにはこういうものがあるということをもっと外部にPRできるようなことを期待している。

(市長)

- 御指摘の件については、私も感じるどころがあり、それぞれの地域に1つ1ついいものがたくさんあって、地域が頑張っていたいていのはその通りで、1つの個性なのでいいことであるが、確かに市でみんなでこの祭りをやるとかこのイベントをやろうということが無いというのは御指摘のとおりなので、そういった環境を作っていくたいなと考えている。文化の面でも文化財の保護とは別にうまく使って外に発信することでまた小城市がよくなるという循環に繋がればと思っている。

(荒牧委員)

- 高田保馬博士に関して昨年映画ができたが、博士がなされたことというのは小城市民として誇らしく、こども達や小城市へいらっしゃる方々に広めたいと思った。最近博士の生家の横を通ったが、生家が無くなり整地されていた。文化課や生涯学習課ではなく、市長部局でこのような対策に取り組んでいただきたい。財政的な面もあると思うが、今生家には標識だけあるような状態で残念だった。市長が提案されていることに期待している。

(梶原委員)

- スポーツの面になるが、昨年11月23日に生涯学習課で小城市レクリエーション大会を開催されたが、昨年は行けなかったがその前年の第1回に行ったが、なかなか人が集まっていない所を寂しく感じた。小城市挙げてのレクリエーション大会ということで、もっと盛り上がる方法がないかなと思ったときに、生涯学習課が担当するよりも市長がおっしゃったような市長部局の担当者の方がもっと大規模に、それぞれの町やそれぞれの区を巻き込んでできるのかなという気がした。ただそういうところに集まるという意識が以前と比べると不足しているのかなと感じる。それをどう意識改革し、いろいろな大会や祭り、それぞれの催し物にどう繋いでいくかを同時に考えていく必要がある。

(市長)

- スポーツや文化は、まちづくりや交流、地域振興という話と密接に繋がっていると思う。そういう中で、小城市のスポーツや文化を盛り上げていければというのが率直な思いである。

(飯盛委員)

- 私達も変わっていかなければいけないと感じた。教育も文化財もそうであるが、市長がおっしゃられるような発信力、発信していく力を首長部局で進めていただくことが、これから小城市が変わっていくことになるものだと感じた。
- 懇話会の話のなかで2番目にある児童生徒にとってのよりよい教育環境についてというところも一緒に、小城市民に対しても、小城市民のためのより良い環境づくりのために、私達も何かしらしなければいけないと感じた。

(白木原委員)

- いま日本では、世界的にアニメが有名で、アニメやゲームは日本の主力産業になっている。若い人たちは、アイドルを追いかけて各地にコンサートに行っていて楽しむ。例えば、文化財を見に佐賀に人が来れば、観光業に繋がることにもなる。小城市だけでは、財源にも限りがあるので、将来的には、スポーツを誘致するなど企業を巻き込んでの計画を練ったほうが小城市の大きな発展に繋がるのではないかなと思う。小城市だけだと少子高齢化でどうしようか、小城市に限る話ではないが、いかに企業から資金を持ち込んでもらい小城市を発展させるか、文化的にもスポーツ的にもそういうことを考えたほうが、時間もかかるし難しいことではあるが子ども達の将来のために、今子ども達が好きなことを伸ばしてやる、それを産業にしていくことを考えたら子ども達に楽しい未来が開けるのではないかなと考える。

(永野委員)

- 市長の提案を聞き、いいことだなという認識である。これが、市全体としての活性化の起爆剤になればと思っている。
- 変わっていくことに関しては、メリットもあればデメリットもあると思うが、今後、ここは考えていかなければいけないという点があるのかどうか。機構が変わっていくことで、どこかに負担がかかるとか、そういうことが無いのかということをお話いただければ。

(市長)

- 抽象的な言い方になるが、市民の皆さんから見ると、誰がやっても市役所がやることなので、どこがやってもいい。あくまで、受け手の立場からすると。そうすると、一番大事なことは、市民の皆さんから見たときに、何かを実現するために、どういうやり方をしたほうがいいのかということがあって、それが実は組織である。その組織自体は、どんどん変わっていくことが当たり前で、どのような組織を作っても、やはりどこかにひずみがある。これは、どういう組織でも一緒である。市民の皆さんから見たときに、どういう方向を実現したほうがいいのかということに対し、最適なやり方、方法として、我々の体制、組織をどうしたほうがよいのかという形で組織を作っている。私の経験上、これに関しては何かこれが変わったというものは無かった。
- 一番最初に 15 年前に県で組織を作ったときは、文化とスポーツだけだったが、観光と一緒にしたほうがよいということで、文化、スポーツ、観光が一緒になった。文化財は教育委員会に残していたが、やはり一緒がいいという話になり、知事部局に 5 年前ぐらいに来たが、文化財保護がものすごく活性化した。魅せるということに燃え出した。これに関しては、良いことのほうが多かったと思った。最初は、結構気持ちを切り替えるのが大変だったが、15 年経過し、かなり今うまくいっている状況だと思う。
- これは、私からの提案ということで、具体的なことについては、またこれからどう

するかということについて、協議をさせていただきたいと思う。今日の議事については、以上で終了とする。

4 閉 会 (11:51)